

詩を読もう 学習指導計画

2009.2.13 松本 修

○ねらい：詩の読みを交流する手段として、学習者個々の読みの方略を背景に、相互に質問を作り、交流する。読みのための中核的な問いを作る活動を通して、読みの交流を自らデザインする力を身につけさせる。(無謀な計画)

○教材 私と小鳥と鈴と 金子みずず

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面^{じべた}を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

○学習過程

1 朗読 授業者の朗読→一緒に朗読 5分

2 「問い」を作る 10分

・友だちに聞いてみたい「問い」をひとつだけ考えましょう。

・その「問い」に対する答によって、友だちがこの詩をどう読んだかをはっきりわかるものとなるような「問い」になるように考えてください。

3 みんなの問いを比べる 35分

・みんなの問いを聞いてみよう

・誰の考えた問いが一番いい問いでしょう。その「問い」に対する答によって、友だちがこの詩をどう読んだかをはっきりわかるものいい問いです。

・それぞれが考えた一番いい問いとその理由を発表しましょう。

・みんなでどの問いが一番いいか、話し合しましょう。

・一番いいとした問いに答えてみましょう。そして、それぞれの答えを発表しましょう。

4 どのような条件を満たした問いがいい問いになるのか考える。